



# 発達障がいをもつ子どもの 生活習慣病の予防に関する研究

保健福祉学部 看護学科

助教 鴨下 加代 (かもした かよ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3409号室  
Tel 0848-60-1185 Fax 0848-60-1185  
E-mail kamosita@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 小児看護学

キーワード： 小児 生活習慣病 慢性疾患

## ● 主な取り組み・活動

子どもの肥満は、成人肥満に移行しやすく生活習慣病の合併や死亡率に影響することが報告されています。そのため、小児期から健康的な生活習慣の獲得を促し、肥満や生活習慣病の予防やその兆しがあれば早期に対応をすることが重要になっています。また、発達障がいをもつ子どもは、発達の特性によっては生活習慣を調えることで難しい面があり、肥満などの健康問題がある場合は、その特性に応じた保健指導が必要となります。

そこで、私は附属診療センターで肥満などの健康問題を抱える発達障がいをもつ学齢期の子どもと家族に看護外来として、生活習慣を調べ生活習慣病を予防する活動をしています。そして、発達の特性に応じたよりよい看護プログラムを開発するための研究をしています。

現在は附属診療センターの医師や作業療法士、地域の学校教師と連携し、子どもの特性に応じた関わり方を検討し、家族と子どもと共通認識をもち、バランスのよい適量の食事を摂ることや運動習慣を確立することを行い、一定期間の生活習慣の改善や体重減少は認められています。しかし、長期的な成果が得られていません。その原因の一つとして、進学などのライフイベントによる影響に対処できていないことが考えられるため、今後は学齢期のライフイベントを考慮した看護介入を考えていきたいと思っています。

## ● 今後の目標・抱負

子どもとその家族が健康な生活をするために必要な知識と技術をもって、生活習慣病の予防ができるためのよりよい看護プログラムを検討していきたいと考えています。また、そのための子ども向けの視覚的な教材開発をしていきたいと思っています。

その他にも、慢性疾患をもつ学齢期の子どもが健康な生活を送れるための支援を検討していきたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

病気や障がいをもつ子どもが健康な生活を送るための活動ができればと考えています。

## ● これまでの連携事例・実績

これまで、家族会である「がんの子どもを守る会広島支部」の活動を支援してきました。その活動の中で「小児がん経験者の会」の発足や、「小児がんの子どもたちのキャンプ」の企画運営に関わり、小児がんを経験した子どもたちの地域密着型のピアサポートの体制づくりをしました。